

編集後記

Mayur

とりえず締め切りに間に合わせようと思って投稿した記事が掲載されることになり、編集作業の段階で、編集者に見守られながら文章を練りました。その気分はさながらホテルに缶詰にされた作家のようでした。お世話になりました宝彩先生、編集・校正担当、および編集長席の皆さん、そしてこの宝彩 BB マガジン創刊号をお手に取ってくださる方々に心よりお礼申し上げます。創刊号を目にするのが、今からとても楽しみです。

しずあめ

新しいことの始まる季節、瞑想の仲間と一緒に新しい活動が始まりました。初めてのことはずなのに、すっかり忘れていた遊び場をたまたま見つけて入り込んだような感覚です。じゃあ遊ぼう！なんて、うきうきと楽しんでいました。

BB マガジンに携わることで、自分にもまた新たな変化が起こりそうです。いつの間にか忘れていた大切な何かにふたび出会えそうです。また修行を続けていきます。

宝彩有菜

修行と瞑想の専門マガジンとして「宝彩BBマガジン」の創刊号を発刊することができました。画期的なことだと思いますし、とてもありがたいことだと思います。参画くださった、宝彩瞑想リーダー諸氏の獅子奮迅の働きがあってこそできたことだと思います。ここに深く感謝いたします。この「宝彩BBマガジン」が、皆さまの人生の真の幸福と、より豊かで愛に満ちた充実した日々のために、良き指針になることを心より願っております。

黒幕

微力ながら創刊号の編集に関われてうれしいです。

編集の過程で、心の中のことを言葉で伝える難しさを感じました。このマガジンが、単なる知識ではなく、経験を通じて、読む人の心の変化につながることを願っています。

自分自身、わかっているように書いていても、できないことが多いです。いつも試行錯誤の連続で、それでも少しずつは変わっているようです。

大空旅人

ゼロから出発して、ようやく、創刊号が形になるところまで来ました。宝彩先生を始め、発刊に関わってくださったすべての方に、感謝したいと思います。ありがとうございます。それにしても、宝彩 BB マガジンの発刊に関われたことは、幸せなことだと思います。勉強にもなりましたし、修業的にも大いにプラスになりました。編集後記、「180~200文字で」と言われたのですが、200文字って、結構、長いんですね(笑)。

トモ

うちの近所の桜並木が満開になりました。壮麗に咲き誇る桜の花。そしてまた目を移せば鮮やかな新緑が心に染み入ります。修行に出会い、あるがまま、そのままの物の美しさを感じることができるようになりました。そんな素敵な季節に産声をあげる宝彩 BB マガジン。スタッフとして参加できたことが本当に幸せです。そして皆さまと感動を共有できることを心からうれしく思います。ありがとうございました。

パパイヤ

私は、創刊に向けて掲示板の機能テストや「宝彩 BB マガジン」編集室内のパソコン塾に参画しました。それらを通じて編集室スタッフの皆さんと交流できて、とても楽しかったです。こうして創刊の瞬間に立ち会えて、嬉しく思っています。私にとって瞑想は、今の所少しずつ前進しているという感じなのですが、それでも着実に進んでいる感触があり、今後の修行の進歩が楽しみです。また、宝彩瞑想の今後の発展も楽しみです。(^^)

チバ

船が、出ます。ただ名前だけがあり、どこへ向かうのか、大きさも、マストの数も、帆の数も、何ひとつ決まっていなかった船です。編集スタッフの誰もが、雑誌を作るには、まず何をすればいいのか？という状態からのスタートでした。協力して、ひとつひとつ手探りで前に進み、ようやく形になりました。いよいよ、宝彩 BB マガジンの出航です。これからの航海を、温かく見守っていただけるよう、お願いします。